

平成29年7月6日付・山陰中央新報

島根県立大(浜田市野原町)を2012年に卒業し、シンガー・ソングライターとして活躍する山根万理奈さん(27)―松江市出身―が同大の応援ソングを制作することが決まった。同大の要請を受け、キ

ャンパスライフを過ごした浜田市の豊かな自然などからイメージを膨らませる。同大が開学20周年を迎える20年までに発表予定で「県大らしさを存分に伝える歌にしたい」と意気込む。(佐々木一全)

山根万理奈さん(歌手) 母校に恩返し

県立大応援ソング制作へ



清原正義学長(右)に向けて、応援ソングの制作への意気込みを語る山根万理奈さん

「在学中に感じたありのまま表現」

山根さんは同大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)で学んでいた09年、顔を隠して、インターネットの動画投稿サイトにギターの弾き語り映像を投稿。伸びやかな歌声で人気に火が付き、11年7月にメジャーデビューを果たした。大学生活では10年4月に総合政策学部に入部し、卒業後は同大の広報大使第1号に任命された。

山根さんは同大短期大学部(松江市浜乃木7丁目)で学んでいた09年、顔を隠して、インターネットの動画投稿サイトにギターの弾き語り映像を投稿。伸びやかな歌声で人気に火が付き、11年7月にメジャーデビューを果たした。大学生活では10年4月に総合政策学部に入部し、卒業後は同大の広報大使第1号に任命された。

学生時代に印象深かったのは、住民の温かさや豊かな自然環境だったという。歌詞では、浜田キャンパスから望む日本の絶景や夕日の美しさなど、母校を想起させるようなフレーズを所々に盛り込み、明るい曲調に仕上げる構想だ。

浜田

応援ソングの制作は開学20周年を前に、同大の魅力発信につなげようと清原正義学長が発案。9月に県内で開くコンサートのPRのため、同大をこのほど訪れた山根さんが、清原学長から「誰もが楽しく歌える歌を作ってほしい」と持ちかけられ、その場で快諾した。

「歌を通じて大学に恩返しができる機会を待っていた」と山根さん。「在学中に自分が感じたありのままの思いを表現し、キャンパスに足を運びたい」と力な歌を生み出したい」と力を込めた。

街角
トピックス

松江

◆ステンド
グラス作家講

演 島根県立大学短期大
学部（松江市浜乃木7丁
目）でこのほど、「ホス
ピタリティ論」をテーマ
にした授業があり、鳥取
県大山町内に工房を構え
るステンドグラス作家、
清水環さん（59）―大田市



出身が「社会で生きる
大切な夢」と題して講演。
工芸作家の夢をかなえる
までの経緯などに、受講
した63人が熱心に聞き入
った―写真。

ホスピタリティ論の授
業では、幅広い分野で活
躍する人を招いた講演会
を企画するなどし、学生
の進路選択などに役立て
てもらっている。

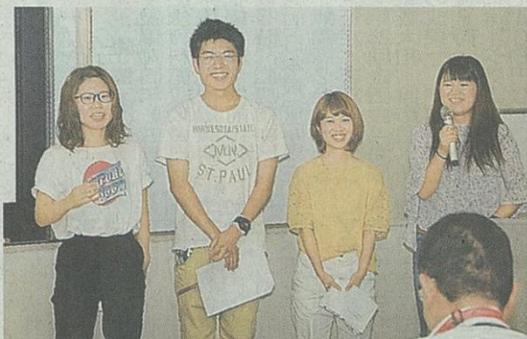
大学で美術を学んだ清
水さんは結婚して専業主
婦になったものの、もと
もと志望していた作家を
目指して一念発起。紆余
（うよ）曲折を経ながら夢
をかなえた自身の経験を
踏まえ、「恩師や友人など
周囲の支えで今がある。
若い人たちには出会いを
大切に感じる感受性を持っ

てほしい」と、人とのコミ
ュニケーションの大切さ
を説いた。（古和隆宏）

◆意東小児童が中海水
質調査 松江市立意東小
学校（松江市東出雲町下
意東）の5年生27人がこ
のほど、近くの中海で水
質調査を行ったり、生物
を採取したりして、水環
境について理解を深めた
―写真。

県立大短大生考案の事業
大学が助成 3件採択

松江



考案した事業について説明する山田理乃
さん（右端）ら学生たち

県立大短期大学の学生
が考案した事業に大学側が
経費を助成する「キラキラ
ドリームプロジェクト」の
公開審査会がこのほど、松
江市浜乃木7丁目の同学部
であり、島根の魅力を他県
でPRする企画など3件が
採択された。

学生の自主性や創造性を
養おうと毎年実施し、5回
目。最大22万円のドリーム
枠と、最大10万円のキラキ
ラ枠があり、今回はドリー
ム枠に1件、キラキラ枠に
2件の応募があった。
ドリーム枠に応募した総

合文化学科1年の小森夕子
さん（18）らのグループは、
県外のショッピングモール
で島根をPRして買い物客
にアンケートを実施し、旅
行会社に働き掛ける試みを
提案した。

キラキラ枠に応募した同
学科2年の山田理乃さん
（19）らのグループは、短大
生の進路選択に役立てるた
め、社会人を招いた交流会
の開催を企画。同学科1年
の牧南花さん（18）は神社仏
閣巡りの趣味を生かし、紀
行文を執筆して島根の隠れ
た魅力を伝えるとした。

独創性や実現可能性など
の項目で関係者5人が審査
し、3件とも採択された。
岸本強副学長は「経験を生
かし、何かをつかんでほし
い」と話した。（古瀬弘治）

松江

写真撮影した。

その後、カラン、カランとげたを鳴らしながら松江城や塩見縄手を散策し、歴史や文化に触れた。

島根大学（松江市西川津町）と県立大学短期大学部（同市浜乃木7丁目）の学生が15日、色とりどりの浴衣を着て、堀川遊覧船の乗船や松江城などの散策を楽しみ、城下町・松江の魅力に触れた。

お気に入り浴衣着て

県外から進学
島根大生ら ゆるり城下散策

参加した18人の学生は、市内の着物レンタル専門店「堀川小町」で赤や青、ピンクなど気に入った浴衣を選び、堀川遊覧船に乗船。華やかな雰囲気の中、北堀橋付近で国宝の松江城天守が見えると、一斉にスマートフォンをかざし、おうと企画した。（松本直也）



色とりどりの浴衣を着て堀川遊覧船の船上から松江の景色を楽しむ学生ら

県立大短大生 イノシシ肉活用第3弾

ジビエ炊き込みご飯開発

関係者 年内の商品化目指す 試食

松江



イノシシ肉を使った中華風（手前左）と和風（手前右）の炊き込みご飯

県立天短期大学部（松江市浜乃木7丁目）の学生が、ジビエの一種・イノシシ肉を使った炊き込みご飯の素の商品化に取り組んでいる。イノシシ肉の商品はガンボスープ、ほうとうに続く第3弾で、栄養価の高さに加え、おいしさも重視した。開発中のライスバーガーと合わせ、今年中の商品化を目指す。24日に同大で関係者が試食した。

（岩井彩佳）

開発したのは籠橋有紀子准教授（45）の研究室で学ぶ、いづれも健康栄養学科2年の福島美咲さん（19）と森川春音さん（19）。松江市内で有害鳥獣として昨年度に捕獲されたイノシシは1063頭で、このうち活用されたのは36頭にとどまった。販路を広げ、

活用量を増やそうと考え、「まっえ農水商工連携事業」の一環で取り組んだ。炊き込みご飯に使ったのは、脂身が比較的少なく、他の具材も引き立たせるのも肉で、1ヶ月にスライスした。味付けは和風と中華風の2種類。和風は安道湖産シジミのだしにゴボウな

どの具材を合わせてショウガで辛みを効かせ、中華風は干しシイタケから取っただしにキクラゲを加え、食感に気を配った。市職員や食肉加工業者ら「おいしい」「肉の幅を大きくして存在感を出した方がい」などと意見した。試作を重ねた学生2人は「イノシシ肉の食べ方を広め、幅広い年代の人に愛される商品にしたい」とし、地元産の具材をなるべく多く取り入れる考えだ。